



## 2日間の意味



年度当初の臨時休業中より、生徒会顧問団を中心に実施方法等について検討を重ねてきた東輝祭が、9月18日(金)、19日(土)の2日間で行われました。子供たちの安全を第一に考える中での「特別な東輝祭」は、今後の学校生活を考える上でも、大変意味のある行事となりました。

開閉祭式や発表部門では、リモート形式や映像を有効に活用しました。生徒ももちろんですが、若い先生たちの技術に驚かされました。また、密を避けるために、吹奏楽の発表は2回行いました。競技部門では、種目を精選すると共に、クラスを2つに分けて長縄跳びを行う等の工夫も行いました。

2日目の競技部門の開会式、校庭を一杯に使って、今年度初めて、全校生徒が集まりました。感動的な光景でした。私も喜びを噛みしめながら生徒に話をしましたが、同時に初めてでないような気持ちもわきあがってきました。それは、今年の生徒会が「想い」を大切にしながら取り組みを進めできたからであり、日頃

から、たとえ顔を合わせていなくても互いを思い遣る姿勢を重視してきたからだと思ってきました。また、そういった基礎があるからこそ、今年のようなやり方が成り立つのだと思えました。映像で伝える力、理解する力を育てることの大切さを知ると共に、AIの発達や、働き方改革も求められるこれからの世界を生きていく子供たちにとって、「特別な東輝祭」は新しい時代への第一歩なのかもしれないとも思えました。

今年度の東輝祭は、密になることを避けるため、子供たちの活動が実現することを最優先に考え、来賓や保護者の皆さんをお呼びすることができませんでした。保護者の皆さんのお気持ちを考えると申し訳ない気持ちで一杯なのですが、ご理解をいただいたおかげで、無事、東輝祭を終えることができました。本当にありがとうございました。子供たちは、応援してくださっている皆さんの「想い」も受けとめ、2日間、精一杯頑張ってくれたように思います。

「新しい日常」の中で、学校教育を創造していく歩みは続きます。子供たちのために、これからも、ご協力をよろしくお願いいたします。



# 全校で、、、。

開閉祭式、発表部門、全校合唱、応援、、、。今年の東輝祭で、実施について特に検討しなければならなかったのは、例年全校で実施していた内容でした。生徒数 610 名の本校では密になることを避け、中止することも考えましたが、リモート形式、2回の発表、映像使用、実施場所の変更等の工夫を行う中で、「想い」を込めた活動を行うことができました。

同様に全校で取り組むものに、全校制作があります。例年は、塗るモザイク画に取り組むのですが、今年度は、今年の生徒会活動のスローガンが「三重想 ～みんなの未来よ サクラサケ～」であり、「想い」を「重ねる」ことを重視した活動を行ってきたこと、2日間の東輝祭が成功をすることを願って、折り鶴を使ってのモザイク画を作成しました。

千羽鶴にも象徴されるように、折り鶴には様々な「想い」が込められています。職員も含めた全員で折った鶴。その一つひとつが結集して出来上がったモザイク画は、今年の「特別な東輝祭」を象徴する素晴らしい作品となりました。

今後は、職員室の廊下に展示する予定です。未来にもつながるこの作品は、みんなを激励し続けるでしょう。



## 「合掌で合唱」

東輝祭が終わり季節も秋めいてくると、学校生活は後半に向かいます。東輝祭の協力をさらに発展させ、充実したものにしていくために、日常生活を見つめなおしていきます。1年生は先輩になる準備を始め、2年生は新人戦や生徒会選挙などを通して東中の顔となるよう努力していきます。3年生は卒業を意識し始めると共に受験への準備も行っていきます。今年は例年と違った状況もありますが、感染症対応はもちろん、子供たちは一つひとつのことに丁寧に取り組んでいます。

生徒玄関から入って突き当りを左に曲がると、ちょっとした飾り棚があります。その棚をふと眺めると、手作りのたくさんのお地藏様が並んでいます。よく見ると指揮者がいたり、伴奏者がいたりして、「東雲合唱団」と名付けられています。一人ひとり表情が違うこのお地藏様は、2学期よりいらっしゃった宮田先生が、臨時休業中につくったもので、山



崎先生と一緒に飾ってくださいました。廊下を歩いている子供たちも気がつくと思わず駆け寄り、お地藏様と同じような優しい笑顔になっています。

コロナ禍にも負けないようにと、お地藏様が応援してくれているような気がします。ほっとして、前に進む意欲がわいてきます。学校という環境には、こん場所も必要です。